令和３年度（2021 年度）第３回コミュニティ交通部会　議事録（書面開催）

【議事】（１）公共交通空白地域等における予約型乗合タクシーの制度見直しについて

①利用促進・利便性向上に向けた取組について

（各委員のご意見）

・地域住民向けの周知・広報として乗り方講座を実施するのは良い取り組みだと思う。また、マイ時刻表についても、高齢者の方などにとっては時刻表が見やすくなり助かるのではないか。

・周知・広報を一緒に取り組んでもらおうとしている「ささえりあ」の反応はどうだったのか。

・ダイヤの変更について、もともと利用の少ない１便の時間を、さらに早める予定にしているが、需要があるのか。

（部会長のご意見）

・乗り方講座については、住民の集め方、どういうタイミングで講座を実施するかは工夫が必要だと思う。乗り方講座のためだけに集まる人は限られるのではないかと思う。

・コロナ禍でなかなか実施することは難しいとは思うが、取組は良いと思うので継続して欲しい。

・まちづくりセンターや「ささえりあ」は、より地域に密着していることから、交通政策課だけでは周知が行き届かない部分を補っていただくように連携を図っていただきたい。

（事務局の回答）

・「ささえりあ」の方々には、周知・広報活動へのご協力についてご理解をいただいていると認識している。今後、具体的な取組をそれぞれの事業所と進めてまいりたい。

・乗り方講座の実施については、コロナの感染状況を見ながら、もともと地域での集まりがある際に、少しお時間いただいて実施するなど、対象を広く周知ができるようにすすめてまいりたい。

・事例として紹介したダイヤの変更については、地域の高校生が通学に利用するため時間を早めて欲しいと要望があったもの。変更については、地域内で合意が得られており、利便性を確保している。今後も、ダイヤの変更、停留所の新設・移設など地域と協議のうえ、柔軟に対応をしていきたい。

②新たなコミュニティ交通のイメージについて

（各委員のご意見）

・新しい制度のイメージは理解した。実験してみることで課題も出てくると思う。
・タクシーで移動する際、目的地を伝えるときに住所を言う人は少ない。●●病院の近くとか目印になるようなものを伝えることが多いと思う。実験時のエリア設定では、そういった目印になるような目的地を含んでいるかという視点もあると良いと思う。
・タクシーの同乗は人によっては抵抗がある人もいると思う。ただ、バスでは移動ができない人もいる。バスは停留所、ダイヤが決められていて、その他自由が利かない部分がある。だからこそ料金を抑えられている。
・タクシーでの移動が必要な人の利用を促して、また高齢者など予約のサポートを行うなどすれば、利用がしやすくなるのではないか。
・乗合せを多く発生させるためには、拠点となるような場所を設けることも検討してみてはどうだろうか。
・行政として、利用者の利便性向上を図る取組を行うことは理解できる。一方で、事業者の経営の観点もしっかりと考慮する必要がある。一般のタクシーとの区別をしっかりとし、またバスとタクシーとの役割分担についても考慮する必要があると思う。
・「ささえりあ」もまちづくりを一緒にやっていく役割を担っていると認識している。実証実験の際など協力できるところはしていきたい。

（部会長のご意見）
・既存の制度だけでは、なかなか解決できない課題もあるので、試みとしては良い取組だと思う。
・社会実験をする際は、経費や地域負担がどれぐらい生じるか、持続可能なものにするためにはどうすればいいか、など課題が洗い出せるようにすることが大事。
・経費を削減することを考えると、AI（ICT 技術）の活用は絶対条件ではない部分もある。ドアツードアの運行にするとしても、AI を使わない方法もあると思うので、運行形態についても、色々なパターンを関係者と協議し、具体的なものにしていって欲しい。
・地域だけでなく、交通事業者との協議も必要になってくると思うので、具体的な協議を進めていって欲しい。

（事務局の回答）
・持続可能な取組となるよう、バスやタクシーなど既存の公共交通との役割分担についても意識して実証実験を行いたい。
・実験を通じて運行経費がどれぐらいになるか、利用料金をどれくらいに設定すれば収支のバランスが取れるかなど、様々な課題の解決につながるような取組にしていきたいと考えている。
・拠点を設けて乗合わせがしやすくなるような取組についても、地域と協議しながら検討していきたい。

【議事】（２）熊本地域公共交通計画の進捗管理について

（各委員のご意見）

（部会長のご意見）

・進捗管理の方法について了承。

・来年度の取組など、どういったことを検討しているのか。

（事務局の回答）

・令和 4 年度は、AI を活用したデマンドタクシーの社会実験を行うこととしている。健軍での社会実験における課題を踏まえながら、市街地部に加え、公共交通空白地域等の郊外部においても社会実験を行い、新たなコミュニティ交通としての可能性を検討したいと考えている。郊外部での社会実験については、南区での実施を検討しているところ。具体的な実験の内容等については、来年度の部会において委員の皆様からご意見をいただきながら、検討を進めてまいりたい。